

平成29年度 公益財団法人大分県体育協会第2回理事会

日 時：平成29年8月30日（水）14：00～

会 場：大分銀行ドーム 地下1階 「408会議室」

理 事

出 席 者 工藤 利明 麻生 益直 井上 倫明 安部 亮 安部 省祐
(22名) 詫摩 英明 土谷 忠昭 永田 佳也 牧 和志 松本 悠輝
養田 智通 穴井 俊一 阿部 昭一 今富 寛二 衛藤 賢
小幡 龍也 桑野桂一郎 佐藤 彰倫 白水 厚二 樋口 紅史
廣瀬 宏一 渡邊 美穂

欠 席 者 広瀬 勝貞 上野 浩光 首藤 奉文 大場 俊二 櫻井 康弘
(8 名) 阿部 俊二 梅田 智行 山崎 隆典

監 事

出 席 者 鍵矢 栄典 工藤 哲郎 矢部 正秋
(3 名)

参 与

欠 席 者 津田 元英
(1 名)

資 格 確 認 伊藤総務部長が出席者22名で、本会定款第36条に従い、定数の過半数の出席者であるため本会が成立することを報告した。

1 開会のことば

伊藤総務部長が開会のことばを述べた。

2 あいさつ

公益財団法人大分県体育協会副会長 工藤利明大分県教育長があいさつを行った。

みなさん、こんにちは。大変暑い中、お集まり頂きましてありがとうございます。また、先週、先々週と長崎で第37回九州ブロック大会が開催されました。皆様には、それぞれの競技団体を率いて、また応援に駆けつけて頂きました。誠にありがとうございました。私も先々週、応援に行かせて頂きましたが、大変暑い中、選手は本当によく頑張っておりました。期待したとおりには、なかなかいかないという点もございましたが、本当によく頑張ったなという試合もございました。結果で見ますと、24の競技で51の代表権を獲得いたしました。51という数字は、芳しくはありませんが、8倍競技等で様々な競技種目が代表権を獲得したということで、我々が今、目標にしております「20位台上位」という目標もこれからの活躍次第では、達成可能なのではないかと期待しているところでございます。

そういった中で、本会期前に既に9月9日から水泳、弓道、カヌースラロームが先陣を切って出場いたします。我々の目標にたどり着けるよう、頑張って参りたいと思っております。皆様の声援をよろしくお願いいたします。

本日は、えひめ国体の派遣選手団の決定を行いたいと考えております。なんとしても我々の目標達成に向けて一丸となって頑張っていきたいと考えております。ご審議のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

議長選出 本会理事会定款35条より、工藤副会長に議長をお願いした。
以降は、工藤議長による進行。

4 報告事項

- (1) 平成29年度事業報告について
- (2) 平成29年度第37回九州ブロック大会成績について
- (3) 第72回国民体育大会に向けた競技力向上対策について
- (4) 各種大会成績について

以下、佐保事務局長の説明。

それでは御説明いたします。レジュメの2ページをお開きください。まず、報告事項(1)の平成29年度事業報告についてですが、5月11日に開催いたしました第1回理事会以降の主な事業につきまして、報告させていただきます。

No.1、5月15日に、大分県スポーツ少年団外傷・障害防止担当者養成講習会の本年度第1回目を開催いたしました。この講習会は、平成18年度からスポーツ少年団が実施している事業で、一昨年度からスポーツ医科学委員会と連携して開催することとなった講習会でございます。2回目はNo.12の6月12日、3回目はNo.22の7月10日に開催いたしました。本年度は10月以降にあと3回開催する予定としております。

No.5、5月26日に定時評議員会を開催しまして、平成28年度事業報告、決算報告を御審議いただき、承認していただきました。

No.13、6月16日に第1回スポーツ医科学委員会を開催し、副委員長を選任するとともに、専門部会規程について協議いたしました。

3ページをお開きください。

No.17、7月1日に日体協の委託事業であります「ドーピング防止研修会」を松本悠輝常務理事に講師をお願いして、78名の参加の下、開催いたしました。松本常務理事には毎年講師をお願いしておりまして、ドーピング・コントロールや熱中症予防対策について御講義をいただいております。松本常務理事ありがとうございました。

No.19、7月7日に九州ブロック大会・国民体育大会帯同トレーナー研修会を開催いたしました。この研修会は一昨年度から始めた取り組みで、帯同トレーナーの資質の向上と、「チーム大分」の一員としての自覚の養成に向けて開催するものでございます。

4ページをご覧ください。

No.27、8月1日から5日にかけて、第44回日独スポーツ少年団同時交流事業を実施しました。今回はドイツスポーツユースの団員8名を大分市に迎え、有意義な交流会が開催されました。受け入れをしていただきました大分市企画部スポーツ振興課には大変お世話になりました。ありがとうございました。

No.31、8月25日から27日にかけて、大分市において、第37九州ブロックスポーツ少年団サッカー交流大会が、九州各県から16団281名参加のもと開催され、九州各県の少年団員がサッカーを通じて交流を深めることができました。

事業報告については以上です。

《質疑応答なし》

それでは、報告事項（2）平成29年度第37回九州ブロック大会成績について報告いたします。

「第37回九州ブロック大会成績一覧」とある別冊資料の1ページをお開きください。

この表は、第37回九州ブロック大会の夏季・秋季大会をあわせました九州各県の代表権獲得数と順位の一覧表でございます。太線で囲んでおります大分県を御覧ください。夏季大会は九州第2位の24、秋季大会は九州第3位の27の代表権を獲得し、夏季、秋季を合わせた総合では、51の代表権を獲得、順位は九州第3位でございました。

2ページから4ページにかけては、夏季、秋季それぞれの競技種別ごとの代表権獲得一覧表でございます。4ページ右下の太字で夏季・秋季合計とあるところを御覧ください。代表権獲得状況ですが、上位通過の代表権獲得数の前年度との比較では、減少している状況ですが、代表権を獲得した競技数については、昨年を3競技上回っている状況でございます。

5ページ以降は各競技ごとの試合結果でございます。それぞれの説明は省略させていただきますので、後刻御確認いただきたいと思います。

本年度のブロック大会を総括してみますと、昨年度、出場した全種別・種目で代表権を獲得したライフル射撃、アーチェリーが獲得数を減らしたこと、剣道が代表権を獲得できなかったことなどにより、代表権数の減がみられた反面、昨年、活躍が期待された中、代表権が獲得できなかったハンドボール少年男子、ボクシング成年男子、ソフトボール成年女子、弓道成年男子などについては、しっかりと代表権が獲得できました。また、代表権獲得競技数が昨年度を3つ上回ったことは、各競技団体が代表権の獲得に向けた強化を進めてきた成果ととらえています。

このようなことから、愛媛国体に向けては、代表権数が前年から減じるなど、20位台上位の達成が楽観視できる状況では決してございませんが、団体競技をはじめ、活躍が期待される競技は概ね上位で代表権を獲得していることなどから、愛媛国体での20位台上位達成への挑戦権は確実にあると考えています。愛媛国体開催まで残り僅かな日数ですが、これからの強化が非常に重要と考えております。

以上が、第37回九州ブロック大会成績についての報告でございます。

続きまして、報告事項（３）第７２回国民体育大会に向けた競技力向上対策について報告いたします。

レジュメの５ページをお開き下さい。

こちらは第１回理事会でお示しました愛媛国体に向けた強化のイメージ図であります。

特に少年の部においては、昨年のインターハイの好成績が国体につながらなかったという反省から、各指標大会ごとに検証と見直しを行い、必要な強化対策を実施することとしました。６月に九州大会、８月にインターハイが開催されましたが、本年度の九州大会・インターハイの結果につきましては、例年以上の成果が出た昨年度と同程度の結果となっております。昨年度の反省を踏まえ、特にインターハイ後の速やかな選抜強化への移行を積極的に進めてきたところです。また、これについては、菺田高体連会長をはじめ役員の皆様方に、４月当初から様々な場面でインターハイ後の選抜強化の重要性について触れていただくなど、強い後押しをいただいたところです。

図で見ますと、現在は九州ブロック大会が終了し、愛媛国体の１ヶ月前の時期となっております。ここからのもうひとがんばりが最も重要であり、気を引き締め直して最終調整を行う必要があります。

６ページをご覧ください。こちらはこれから愛媛国体開催までの期間に実施する競技力向上対策であります。団体競技の強化については、県外遠征や優秀チームを招聘し、インターハイや九州ブロック大会で出たチーム戦術の修正を主な観点として強化を図ります。また、特に環境に勝敗が左右される競技については、これまでも実施はしていますが、再度愛媛国体の会場において練習を行うなど、メンタル面の強化も含め細心の注意を払って準備を整えます。また、アドバイザーコーチを配置している競技ですが、カヌー、フェンシングなどにおいて、インターハイ、九州ブロック大会の反省を基に、本番までの約１ヶ月間における解決すべき選手個々の課題の発見を主な観点として、優秀指導者を招聘いたします。なお、こちらに記載していない競技につきましても、各競技・種別毎の課題に応じた効果的な強化策を計画しております。

愛媛国体開催まで残り僅かな日数ですが、今年の愛媛国体、そして来年の福井国体で「チーム大分」が復活を成し遂げるため、気を緩めることなく強化や調整を行い、大分県競技力向上対策本部と連携を図りながら、愛媛国体での２０位台上位を達成したいと考えております。

以上が第７２回国民体育大会に向けた競技力向上対策についての報告でございます。

《質疑応答無し》

それでは、報告事項（４）の「各種大会成績」について報告いたします。レジュメの７ページをお開きください。

５月８日以降の成績をまとめたものでございますが、※印で記載のように、中学生は「全国大会ベスト８以上」、社会人・高校生は「九州大会ベスト４以上・全国大会ベスト８以上」、国際大会はすべての成績を掲載しています。本日は全国大会優勝と、国際大会出場成績のみを報告させていただきます。

９ページ、陸上競技、秩父宮賜杯（ちちぶのみやしはい）第７０回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会において、大分雄城台高校の児玉芽生（こだまめい）選手が女子１００ｍで、ベヌエル・モゲニ選手が男子５０００ｍで優勝いたしました。また、第５回全国高等学校陸上競技選抜大会において、大分西高校の金子史絵奈（かねこしえな）選手が女子三段跳びで優勝いたしました。

１０ページ、水泳競技、ジャパンオープン２０１７において、早稲田大学の渡辺一平（わたなべいつぺい）選手が男子２００ｍ平泳ぎで優勝、また、第１７回世界水泳選手権において、同じく渡辺一平（わたなべいつぺい）選手が３位に入賞いたしました。

１１ページ、第４０回全国ＪＯＣジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会において、別府市立山の手中学校の山本馨（やまもとけい）選手が男子１４，１５歳飛び板飛び込み及び高飛び込みで、日出町立日出中学校の望月未華（もちづきらいか）選手が女子１２，１３歳高飛び込みで、別府翔青高校の田中大寛（たなかたいかん）選手が男子１５，１６歳２００ｍ自由形で優勝いたしました。

１２ページ、バレーボール競技、全日本９人制バレーボールクラブカップ女子選手権大会において、佐伯長陽会Ｉ・Ｏ（アイオー）が５年連続７回目の優勝を、また、平成２９年度全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技大会において、東九州龍谷高校が４年ぶり７回目の優勝をいたしました。

１３ページ、レスリング競技、第６５回全日本社会人レスリング選手権において、大分レスリングクラブの佐藤史隆（さとうふみたか）選手が男子マスターズ４１～５０歳５７kg級で、同じく大分レスリングクラブの菅田裕二（すがたゆうじ）選手が男子マスターズ４１～５０歳７０kg級で、佐伯豊南高校教諭の牧野新吾（まきのしんご）選手が男子マスターズ５１～６０歳８６kg級で、日本文理大学の斎藤未来（さいとうみく）選手が女子７５kg級で優勝いたしました。

１４ページ、ハンドボール競技、第４６回全国中学校ハンドボール大会において、大分市立原川中学校が女子の部で優勝いたしました。

１５ページ、自転車競技、第８６回全日本自転車競技選手権大会において、中央大学の高橋優斗（たかはしゆうと）選手が男子エリートスクラッチで、また、第５２回全国都道府県対抗自転車競技大会において、社会福祉法人太陽の家の一丸尚伍（いちまるしょうご）選手が男子スプリントにおいて優勝いたしました。

１７ページ、フェンシング競技、第６３回全国高等学校フェンシング選手権大会において、別府翔青高校の上野優斗（うえのゆうと）選手が男子フルーレ個人で、同じく別府翔青高校の上野優佳（うえのゆうか）選手が女子フルーレ個人で、史上初となる兄妹優勝を成し遂げました。また、別府翔青高校の男子は団体でも２年連続２回目の優勝を果たしています。

１９ページ、ライフル射撃競技、第５５回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会において、由布高校の三重野呉春（みえのくれは）選手が、女子エアライフル立射４０発で優勝いたしました。

20ページ、剣道競技、第59回全国教職員剣道大会において、大分市立南大分中学校教諭の姫野翔（ひめのしょう）選手が個人、幼・義務教育の部で、第47回全国中学校剣道大会において、杵築市立杵築中学校の岩本瑚々（いわもとここ）選手が、女子個人で優勝いたしました。

同じく20ページ、カヌー競技、2017カヌースプリントジュニア海外派遣選手最終選考記録会において、大分豊府内高校の新貝達哉（しんがいたつや）選手と楊志館高校の今木悠哉（いまきゆうや）選手のペアが、男子カナディアンペア1000mで優勝いたしました。21ページ、JOCジュニアオリンピックカップ全国中学生カヌー大会において、国東市立国見中学校の中園太陽（なかぞのたいよう）選手が、男子カナディアンシングル500mで、同じく、中園太陽（なかぞのたいよう）選手と豊後高田市香々地中学校の進藤敦司（しんどうあつし）選手のペアが男子カナディアンペア500mで優勝いたしました。その下にあります第33回全国高等学校カヌー選手権大会において、高田高校の田中（たなか）、岩永（いわなが）、米光（よねみつ）、熊井（くまい）チームが男子カナディアンフォア200mで優勝いたしました。22ページ、文部科学大臣杯平成29年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会において、大分豊府内高校の新貝達哉（しんがいたつや）選手と楊志館高校の今木悠哉（いまきゆうや）選手のペアが、男子カナディアンペア500mで、高田高校の田中（たなか）、岩永（いわなが）、米光（よねみつ）、熊井（くまい）チームが男子カナディアンフォア500mで、高田高校の岩尾（いわお）、金丸（かなまる）選手、大分豊府高校の新貝（しんがい）選手、楊志館高校の今木（いまき）選手のチームが、男子カナディアンフォア200mで、また、大分県カヌー協会が男子総合で優勝いたしました。

23ページ、アーチェリー競技、第50回全日本社会人ターゲットアーチェリー選手権大会において、テレビ大分の佐藤真奈美（さとうまなみ）選手が女子リカーブで優勝いたしました。

以上で各種大会の成績の報告を終わらせていただきます。

《質疑応答無し》

4 議事

以下の議事について、佐保事務局長より説明した。

議案1 会長専決事項について

(1) 第37回九州ブロック大会夏季大会大分県代表团について

(2) 第37回九州ブロック大会秋季大会大分県代表团について

議案2 第72回国民体育大会大分県代表团について

【議案1 会長専決事項について】

それでは、議案1の会長専決事項につきまして、説明させていただきます。レジュメ24ページをお開きください。

まず、(1)の第37回九州ブロック大会夏季大会大分県代表团についてですが、役員として、団長、工藤利明 副会長、副団長、蓑田智通 常務理事、総監督、井上倫明 専務理事、ほか総務2名の計5名、旗手は、ボート競技少年女子日田高校の宇野聡恵（うのさとえ）選手、選手数は、10競技28種別に監督・選手123名、本部役員を合わせた総計128名の編成で大分県代表团を会長専決により、長崎県を中心に開催されました第37回ブロック大会夏季大会に派遣いたしました。25ページから26ページに監督・選手の名簿を掲載してございます。

次に27ページをお開きください。

(2)の第37回九州ブロック大会秋季大会大分県代表团についてですが、役員として、団長、工藤利明 副会長、副団長、蓑田智通 常務理事、総監督、井上倫明 専務理事、ほか総務17名の計20名、旗手は、ライフル射撃競技成年男子の近藤桂司（こんどうけいじ）選手、選手数は28ページにございますとおり、23競技64種別、監督・選手557名、本部役員を合わせた総計577名の編成で大分県代表团を会長専決により、第37回ブロック大会秋季大会に派遣いたしました。28ページから34ページに監督・選手の名簿を掲載してございます。

九州ブロック大会の大分県代表団の決定につきましては、県内予選後、参加申込みまでの期間が短く、理事会を開催するいとまがないことから、会長専決により選手団を決定し、派遣した次第でございます。以上で会長専決事項に係る説明を終わります。

《質疑応答無し。全会一致で承認された。》

【議案２ 第７２回国民体育大会大分県代表团について】

それでは、第７２回国民体育大会大分県代表团につきまして説明させていただきます。レジュメの３５ページをお開きください。

開催期日は、主日程が９月３０日（土）から１０月１０日（火）の１１日間となっております。また、会期前実施競技として水泳競技、弓道競技、カヌー（スラローム）競技が９月９日（土）から１７日（日）まで開催されることとなっております。開催地は、愛媛県内の１１市８町、高知県内の１市１町１村、兵庫県内の１市となっております。

本部役員といたしまして、団長に 広瀬勝貞（ひろせかつさだ）本会会長、副団長に 工藤利明（くどうとしあき）副会長、総監督に 井上倫明（いのうえみちあき）専務理事、ほか総務１７名でございます。旗手は、テニス競技少年男子 田口涼太郎（たぐちりょうたろう）選手でございます。

３６ページをお開きください。

参加人数一覧表でございます。本県代表团は、３６競技７９種別に出場し、監督５２名、選手３５１名、合計４０３名に、本部役員を合わせた総計４２３名の編成でございます。

各競技の監督・選手ですが、３６ページから選手名簿を掲載してございます。順に説明いたしますので名簿を見ながらお聞き下さい。

まず、陸上競技ですが、全種別の出場で監督２名、選手２９名、計３１名の選手編成です。インターハイで優勝した少年男子Ａ５０００ｍのモゲン選手や少年女子Ａ１０００ｍの児玉選手をはじめとする少年勢の活躍が期待されます。

次に、水泳競技です。競泳、飛込、シンクロナイズドスイミング、オープンウォータの出場で、監督５名、選手１５名、計２０名の選手編成です。競泳では、世界選手権で３位に入賞した平泳ぎの渡辺選手、インターハイ４位に入賞した少年男子Ｂの田中選手、インターハイ７位の飛込、漆間選手などの活躍が期待されます。

次に、サッカー競技です。少年男子の出場で、監督１名、選手１６名の計１７名の選手編成です。九州ブロック大会を１位で通過した勢いに乗って入賞を目指します。

次に、テニス競技です。成年男子、少年男子、少年女子の３種別に、監督２名、選手６名の計８名の選手編成です。インターハイ２位の少年男子の田中選手など着実に力をつけてきていますので、活躍を期待したいと思います。

次に、ボート競技です。全種別に、監督３名、選手１８名、計２１名の選手編成です。成年男子のフォアや成年女子のダブルなど入賞に期待したいと思います。

次にボクシング競技です。成年男子の出場で、監督１名、選手５名、計６名の選手編成です。昨年は出場できず悔しい思いをしました。荒木、木本選手を中心に上位入賞を期待したいと思います。

次にバレーボール競技です。成年男子と少年女子の２種別の出場で、監督２名、選手２４名、計２６名の選手編成です。成年男子の大分三好ヴァイセアドラー、少年女子の東九州龍谷高校とともに、上位入賞が期待されるところです。

次に体操競技です。新体操の少年女子のみの出場です。監督１名、選手５名、計６名の選手編成です。九州ブロック大会では１位でした。入賞に届く演技を期待したいと思います。

次に、バスケットボール競技です。成年女子のみの出場で、監督１名、選手１１名、計１２名の選手編成です。悲願の入賞をめざします。

次に、レスリング競技です。成年男子、少年男子、女子の3種別の出場で、監督2名、選手14名、計16名の選手編成です。インターハイ2位の武藤選手など力をつけてきました。昨年を上回る活躍を期待したいと思います。

次に、セーリング競技です。全種別に、監督2名、選手14名、計16名の選手編成です。成年男子で有望選手が出場しますので活躍を期待したいと思います。

次に、ウェイトリフティング競技です。成年男子、少年男子の2種別に、監督1名、選手7名、計8名の選手編成です。成年・少年の総合力で昨年以上の競技得点獲得を狙います。

次に、ハンドボール競技です。少年男子のみの出場で、監督1名、選手12名、計13名の選手編成です。昨年出場できなかった悔しさをバネに大活躍を期待したいと思います。

次に、自転車競技です。成年男子、少年男子、女子の3種別に、監督2名、選手11名、計13名の選手編成です。成年男子を中心に上位入賞が期待されています。

次に、ソフトテニス競技です。少年男子と少年女子の2種別の出場で、監督2名、選手10名、計12名の選手編成です。インターハイベスト8の少年男子、九州ブロック上位通過の少年女子ともに粘り強い戦いに期待したいと思います。

次に、卓球競技です。成年女子、少年男子、少年女子の3種別の出場で、監督3名、選手9名、計9名の選手編成です。粘り強い戦いに期待したいと思います。

次に、軟式野球競技です。成年男子1種別に監督兼選手1名、選手15名の計16名の選手編成です。天皇賜杯（しはい）を制した大分銀行が主体です。活躍を期待したいと思います。

次に、相撲競技です。成年男子と少年男子の2種別に、監督2名、選手8名、計10名の選手編成です。少年男子の入賞を期待したいと思います。

次に、馬術競技です。成年女子、少年の2種別の出場で、監督1名、ホースマネージャー兼選手1名、選手2名の計4名の選手編成です。人馬一体となった競技に期待したいと思います。

次に、フェンシング競技です。全種別の出場で、監督2名、監督兼選手2名、選手10名の計14名の選手編成です。インターハイ2連覇の少年男子選手を中心に、競技別総合優勝の期待がかかります。

次に、柔道競技です。少年男子のみの出場で、監督1名、選手5名の計6名の選手編成です。組合せ次第では入賞の可能性が見えてきます。活躍を期待したいと思います。

次に、ソフトボール競技です。成年女子のみの出場で、監督1名、選手13名の計14名の選手編成です。昨年は出場できませんでしたが、大学選手権3位の日本文理大学が主体です。活躍を期待したいと思います。

次に、バドミントン競技です。少年男子のみの出場で、監督1名、選手3名の計4名の選手編成です。粘り強い戦いに期待したいと思います。

次に、弓道競技です。成年男子のみの出場で、監督1名、選手3名の計4名の選手編成です。昨年出場できなかった悔しさをバネに活躍を期待したいと思います。

次に、ライフル射撃競技です。全種別に、監督1名、選手11名、計12名の選手編成です。ここ数年の少年勢の活躍は周知のところですが、成年勢とともに、大活躍を期待したいと思います。

次に、剣道競技です。成年男子のみの出場で、監督兼選手1名、選手4名の選手編成です。成年男子は競技力が高まっています。出場できなかった少年男女、成年女子の分を挽回するような活躍を期待したいと思います。

次に、山岳競技です。成年男子のみの出場で、監督1名、選手2名の計3名の選手編成です。ボルダリングでの活躍を期待したいと思います。

次に、カヌー競技です。成年男女、少年男子の3種別の出場で、監督2名、選手10名の計12名の選手編成です。日本代表選手を中心に高得点が期待されます。

次に、アーチェリー競技です。成年女子のみの出場で、監督1名、選手3名の計4名の選手編成です。日本代表クラスの3人で上位入賞が期待されます。

次に、空手道競技です。全種別に、監督1名、選手7名、計8名の選手編成です。成年男子の中量級に期待がかかります。

次に、銃剣道競技です。成年男子のみの出場で、監督兼選手1名、選手2名、計3名の選手編成です。隔年開催により昨年は実施されませんでした。満を持して上位入賞を狙います。

次に、クレール射撃競技です。監督兼選手1名、選手5名、計6名の選手編成です。力を発揮できれば十分入賞の可能性はあります。活躍を期待したいと思います。

次に、なぎなた競技です。成年女子、少年女子の2種別に、監督1名、選手6名、計7名の選手編成です。少年女子はインターハイ個人2位、演技5位に入賞するなどチーム力は確実に向上しています。活躍を期待したいと思います。

次に、ボウリング競技です。成年男子のみの出場で、監督1名、選手4名の計5名の選手編成です。チーム力のある成年男子の活躍に期待したいと思います。

続いて、ゴルフ競技です。全種別の出場で、監督2名、選手9名の計11名の選手編成です。昨年、悲願の競技得点を獲得しました。さらなる活躍を期待したいと思います。

最後に、特別競技の高等学校野球競技です。甲子園大会でベスト8となった明豊高等学校の出場で、監督1名、責任教師1名、選手16名の計18名の選手編成です。得点競技ではありませんが、甲子園の勢いそのままに活躍を期待したいと思います。

以上、大変長くなりましたが、第72回国民体育大会大分県代表团につきまして説明させていただきました。御審議の程、よろしくお願いいたします。

《質疑応答無し。全会一致で承認された。》

5 その他

《連絡事項等なし》

6 閉会のことば 伊藤総務部長が閉会のことばを述べた。

平成29年8月30日

副会長 工 藤 利 明

副会長 麻 生 益 直

監 事 鍵 矢 栄 典

監 事 工 藤 哲 郎

監 事 矢 部 正 秋